

## はじめに

大船渡市立大船渡中学校、大船渡市立末崎中学校は、ともに大船渡地区、末崎地区両地区の保護者、地域住民からの健全育成の思いを背景に、学習、文化、運動など多岐にわたる分野で活躍が認められる県下有数の学校である。また、両校は、社会に数多くの有為な人物を輩出してきた伝統ある学校である。

今回両校閉校とし、新設統合校を創立するにあたり、両地区の保護者、地域住民が一体となって生徒を育ててこられたこれまでの思いを継承し、さらに発展、飛躍していくことを祈念して、新校名を提案するものである。

## 新校名

おおふなとしりつ やまと ちゅうがっこう  
大船渡市立 大和 中学校

## 新校名にふさわしいと考えた理由

### 1 両地区の融合（生徒の健全育成に向け、両地区一緒になろう）

茶道に「和敬清寂」という言葉がある。「お互いの心を和らげて謹み敬う」ことを冒頭に掲げている。それぞれの地区では、これまでこのような「和敬」の気持ちをもって、生徒の健全育成のため協調してこられた。新設統合にあたり、両地区それぞれの「和(和敬)」を融合させ、一つの大きな「和(和敬)」とすることを基調に据え、新たな中学校を創立させたい。

### 2 生徒の育成（たくましく生き抜く素養を育んでいこう）

今後、厳しい挑戦の時代を迎え、多様な価値観が渦巻く社会において、子どもたちはたくましく生き抜く力が求められる。結論を容易に見いだせない諸問題に直面することも多々あることであろう。互いの考えをすり合わせ、結論を求めていく場合に「和(和敬)」の気持ちが根底になれば、合意形成は困難である。今後身につけるべき大切な素養である「和(和敬)」を育み、他者と共生する資質、能力を更に伸長させ、大成させていきたいものである。そうした願いをもつ学校の校名に適うと考えた。

### 3 「大和」の引用（先人の「古」を大切にしていこう学校であろう）

「大和」と書いて「やまと」と読む。これは、日本の古称である。「能」を大成した世阿弥は「稽古は強かれ、情識はなかれ」という言葉を残している。古(いにしえ)を稽(か)んがえ、柔軟な心で対処することは、これからのたくましく生き抜く力につながるものである。先人の「古」を大切にしていこうことを願って、「古」より継承される「和」と生き抜く力との融合を図りながらさらに「大きな和」としていこうことを願って、敢えて古来よりの文言を使って表現する。

そうすることで、先人の教えやこれまでの歴史などを尊重しながら、たくましく生き抜く力を育もうとする学校であることを了知させたい。